

平成30年度東京ヘリポート不法侵入対応及びハイジャック防止訓練

11月27日（火）警視庁東京湾岸警察署及び東京港管理事務所主催で、「東京ヘリポート不法侵入対応及びハイジャック防止訓練」を実施しましたので、ご報告いたします。

概要及び訓練内容は以下のとおりです。

- 訓練名 平成30年度東京ヘリポート不法侵入対応及びハイジャック防止訓練
- 日時 平成30年11月27日（火）
 - 第一部 通報訓練 13時30分から14時00分
 - 第二部 実地訓練 14時30分から15時30分
- 場所 東京ヘリポート（スクエア・パターン・テスト場及びその周辺スポット）
- 主催 警視庁東京湾岸警察署、東京港管理事務所
- 協力 警視庁機動隊化学防護隊、東京ヘリポート安全連絡協議会、
（一財）航空機安全運航支援センター、（株）エグゼクティブプロテクション
- 訓練内容 ①通報訓練
②不法侵入対応及びハイジャック防止訓練

第一部の通報訓練では、東京ヘリポート内で「不法侵入事案発生」との想定で、東京ヘリポート内の20事業者（隊）及び関係機関と電話による通報訓練を実施しました。

訓練では、各事業者（隊）からの点検結果の異常報告も行われました。

第二部の訓練は、不審者がヘリポートで航空運送事業（不定期）を実施している事業者の参加者を偽って受付に申請し、待合室から制限区域内に侵入。ペットボトルをちらつかせ管理者に逃走用の機体を要求するという想定で訓練を実施しました。

不審に思った受付警備員が事業者に照会した結果、該当者なしと判明したため、無線で「不法侵入事案発生」との一斉送信を行い、それを傍受した指揮者が職員に110番通報を指示するとともに、待機中の巡回警備員に対し刺す又を所持し、不審者を遠巻きにして声掛けに専念するよう指示。

警備員から「不審者がペットボトルの中身は化学溶剤と言って威嚇し、逃走用の機体を管理者に要求しています。」との連絡を受け、指揮者は職員に110番再通報と巡回警備員の退却を指示。また、念のため職員に風向きと風速の確認を指示し、東京ヘリポート化学消防隊員に待機を指示。

入場した所轄署員が指揮者に対し、「機動隊」が東京ヘリポートに向かっているとの報告を行うとともに不審者への説得を開始し、間合いを詰めていく。間合いに耐えかねた不審者が逃走。逃走中にペットボトルを落下させ、その弾みで液体が漏れ出した。



○ 関係機関への通報訓練



○ 逃走用の機体を物色する不審者



○ 不審者を遠巻きにして説得する警備員

指揮者は、不審者の逃走位置をタワーに確認し、巡回警備員を通じて所轄署員に風向き、風速を考慮して不審者の追跡方法等を連絡。

機動隊が到着後、入場した機動隊員に指揮者が溶剤の漏れ出した位置や風向き、風速を報告し、化学防護服と防毒マスクをまとった機動隊員が検知作業を開始。

巡回警備員からは不審者の身柄が所轄署員によって確保されたとの報告が指揮者に入る。

検知の結果、「サリン」と判明し、隊員が除染作業を開始。最後に除染後の効果測定を行い、除染完了との指揮者への報告を以って訓練を終了しました。

終了後、主催者の東京湾岸警察署警備課武藤課長代理からは、「オリンピックまであと605日、東京ヘリポートは所轄内の重要施設となっている。署としても訓練を続けて事案対応能力の向上を図っていく。また、オリンピックにふさわしい環境づくりに全力で取り組んでいくので今後ともよろしくお願ひしたい。」と、また、同じく主催者の東京港管理事務所大野所長からは、「本日の訓練の内容を日常業務の一部として刻み込んで、いざという時にきちんと対応できるようにして欲しい。来年のラグビーワールドカップ、20年のオリンピック・パラリンピックに向けて保安の要請がますます高まっており、その中で東京ヘリポートは東京の機能を確保するための大事な施設である。保安について、高い使命感を持って関係機関と連携して取り組んでいただくようお願いしたい。」と、それぞれ講評をいただきました。

東京ヘリポートでは、訓練を通して、東京ヘリポート内事業者（隊）を始めとする関係機関との緊急事態発生時の連絡体制や、所轄警察署との連携を密にし、保安体制の向上を図るとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けてより一層ハイジャックやテロ犯罪の防止に努めていきたいと考えています。



○ 訓練参加者・見学者で集合写真



○ 不審者との間合いを詰める所轄署員



○ 漏れ出した液体の検知作業開始



○ 漏れ出した液体の除染作業開始



○ 除染後の効果測定開始

最後に、訓練に参加された皆様、機体を提供していただいた朝日航空株式会社様に感謝申し上げます。

(東京港管理事務所港務課)